

幹1本の被爆樹木 広島

8割、爆心方向に傾く

熱線浴びた側成長遅れ？

筑波大など調査



鈴木雅和教授

原爆の閃光を浴びた広島市の被爆樹木のうち、幹が1本しかない樹木の8割近くが爆心地の方向に傾いていることが、筑波大や広島の木匠の調査で分か

った。爆心地側の幹の細胞が熱線などで傷つき、成長が遅れたことが原因ではないかとみている。調べたのは、筑波大の鈴木雅和教授(61)と緑地学、同大学院人間総合科学研究科2年の大脇なぎささん(24)、広島市西区の樹木医堀口力さん(68)の3人。鈴木教授らは9月、爆心地から約2キロ以内にある被爆樹木約170本のうち、幹が1本のクスノキやイチヨウ、ツバキなど56本を選んで調査。原爆で地上部だけが焼失した5本と、被爆後移植された22本を除く29本を分析した。その結果、79



爆心地から約1・1キロにある中区の地で、被爆したイチヨウを



%に当たる23本が爆心地方向に傾いていた。真つすく爆心地方向に傾いていた樹木(爆心地方向と傾いている方向との角度のずれは0度)が2本、ずれが1〜15度の樹木は16本あった。最大でも角度のずれは29度だった。爆心地側の幹は放射線や熱線を浴びるなどで細胞が傷つき、成長が鈍化。影響の少なかつた反対側の成長とのずれが累積し、徐々に曲がったと推測している。残り6本が爆心地方向に傾いていないの

は、反対側で大きな火災が起きた▽土地が傾いている一などの原因が考えられるという。鈴木教授は「被爆樹木は、爆心地の方向を無言で示し続け、生命力の強さと消えない傷の両方を伝えている。今後、生い立ちや内部の様子などを一本一本さらに調べたい」としている。(増田咲子)

広島で23日に調査結果発表

調査の結果は、国連訓練調査研究所(ユニタール)広島事務所が

クリック
被爆樹木 広島への原爆投下前からの爆心地から約2キロ以内で被爆した樹木。市が1996年度から、証言や樹木医による確認

などを基に、一般の人が出入りできない個人宅にある樹木を除いて登録を始めた。現在は、公園や寺など55カ所にイチヨウやツバキ、エノキなど約30種類、約170本ある。

21 Oct 2013, Chugoku Shinbun
80% are inclined toward Ground Zero
Prof. Suzuki from Tsukuba Univ. will present his research result on A-Bomb Survivor Tree at UNITAR Public Session over Green Legacy Hiroshima

ナスリーン・アジミさん、建築家の錦織亮雄さんの4人が、被爆樹木の意義などについて話し合う。無料だが、事前申し込みが必要。☎082(511)2424。電子メール irishima@unitar.org

